



がせんましてみても

旅行で景勝地や外国などへ行くと、建物の色や高さなどが統一されていて、感動することがありませんか。良好な景観をつくるには、道路や公園などの公共物はもちろん、わたしたち市民や事業者が景観に配慮する必要があると思います。そこで今回は、まちづくり課で景観について話を聞きました。

担当は市民編集委員、石原・杉山。

問い合わせはまちづくり課 ☎8660—0676へ。

美しい景観を作るためには

市では、平成5年に景観条例を制定し、美しい景観をつくる活動をしています。「歩いて楽しい前橋のまちづくり」を基本目標とし、その実現のために、次の方針を決めて重点的に活動をしているそうです。

- ①水と緑がおりなすふるさとを育てる。
- ②歴史にはぐくまれた文化を育てる。
- ③人にやさしい生活環境をつくる。
- ④まちに魅力ある個性をつくる。

市では今後、新しく景観計画を策定するそうです。そこで各地域の景観に関する特徴や意見を聴くために、昨年の8月から10月にかけて市内17地区で「ふるさと自慢を語るつどい」を開催しました。前橋らしい景観についていろいろな意見が出されました。「前橋らしい景観は何か」という問いに対し最も多かった答えは「自分の住んでいるまちや家から見る赤

城山」だったそうです。

また、美しい景観の妨げとなる次のような問題点もあります。

- ①一部の地区を除いて建物の高さに規制がなく、デザイン、色の規制もないため、統一感が生まれません。
- ②屋外広告物の規制が緩く、市街地

身近にできることはないか

まず、住んでいる地域への愛着と誇りを持つことが必要ではないでしょうか。そうすれば、ごみの不法投棄やたばこのポイ捨てなどはなくなり、自分の家や庭だけでなく、住んでいるまちをきれいにしようとするのではないかと感じます。

まもなく全国都市緑化ぐんまフェアが始まります。近所の人たちが一緒にまちをフラワーポットなどで彩り、自分たちだけでなく、多

く郊外で派手な看板が目立つ。

③電線・電柱が目立つ。

④市内にある歴史的な建造物などを維持するには、費用が掛かる。

⑤生活の利便性を高める道路や、歩行者の安全を守るガードレールも景観を損なう場合がある。

いずれの解決を図るにも、市と市民・事業者がよく話し合うことが必要だと感じます。

く観光客にも楽しんでもらえたらいいですね。マンションのペランダなどにも、花の種類や色などを統一して飾るのも面白いと思います。

また、耕作していないような畑があれば、市民に開放し、花や農作物などを作ってみるのはいかがでしょうか。市街地の空き地や空き店舗も無料か低価格で貸し出し、それらの場所からまち並みの統一感を作り上げていくのもよいと感じます。

美しいまち つくるため

景観について

市の制度もっと活用しよう

市では景観づくりの活動などに、建築などの専門家がアドバイスをする景観アドバイザー制度があります。中心市街地と郊外では、その地区をイメージする色も違いがあるようです。建物の新築や増改築をするとき

編集後記

前橋のイメージをつくっているまち並みや自然。個性豊かな美しい景観をつくり、未来へと受け継いでいくためには、まずわたしたち市民が景観にもっと関心を持つ

市民編集委員を終えて

ときは特別なうれしさも。自分の撮った写真が掲載された広報紙を手にとって、一層愛着がわきました。

杉山 市郎

一昨年の4月15日号から本紙に毎月1回、2ページを担当し、企画、取材してきた市民編集委員の皆さん。今号で任期を終えました。これまでの活動を振り返り、感想を紹介します。

石原 弥一

広報紙を読む立場から書く立場になって、とても良い経験をする事ができました。市のいろいろな課や施設に取材に行きましたが、どの取材先でも丁寧に取材に応じてくれたことに感謝しています。趣味で写真をしていたため、取材先で撮影した

参加されることを願います。

諸岡 頼子

親の介護を続ける生活の中、世間の情報から取り残されないようにと始めた市民編集。編集会議や取材は、わたしにとって貴重な体験でした。いろいろな分野の人と会えたのも刺激的で、知らなかったことや気付かなかったことを学び、市民としての実感が味わえました。

古田島 俊憲

収蔵美術作品展の取材・編集では、郷土作家の作品を知ることができました。また、紙リサイクルの企画で

まえばし景観展 開催します

残したいふるさと前橋をテーマに実施した景観写真コンテストの入賞作品を展示。切り絵作家・関口コオさんや水彩画家・筑井孝子さんの作品も展示します。観覧は無料。ぜひ、ご覧ください。

日時 3月29日(土)～4月6日(日)
午前10時～午後8時
会場 けやきウォーク前橋(文京町二丁目)

は、紙リサイクル庫の存在が分かり、リサイクルの意識が高まりました。市民編集委員としての活動が、市政の知識・教養の修得につながったことにも感謝しています。

大澤 幸恵

2年間、市民の視点が生かせるよう、また取材を受けた人の思いが皆さんに届くよう心掛けて取り組んできました。原稿を書き伝えることに難しさも感じましたが、さまざまな人に出会い、今まで知らなかった市の一面に触れることができ、本当にいい経験になりました。ありがとうございました。